

令和4年度 第3回大島区地域協議会 次第

日 時：令和4年6月28日（火）

午後2時から

場 所：大島就業改善センター

3階 大会議室

1 開 会

2 報 告

- (1) 中山間地域農業の維持・振興に向けたワークショップの
開催状況と今後の展開について

資料No. 1

3 協 議

- (1) 視察研修について

資料No. 2

4 その他

- (1) 第4回地域協議会の開催日について

【開催日：___月___日、開催時間：___時から】

5 閉 会

中山間地域農業の維持・振興に向けた
地域自治区別ワークショップ(みらい農業づくり会議)
開催状況及び今後の展開

令和4年6月28日(火)

上越市中山間地域元気な農業づくり推進協議会
浦川原区推進チーム

令和3年度における開催状況及び今後の展開について

中山間地域農業の維持・振興 「ありたい姿」(将来の方向性)

地域農業者が
主体的に議論し、
共有する

課題解決に向けたテーマ別方策

担い手・後継者の確保



農業生産維持に向けた
作物選定・所得確保



農業機械・スマート農機の
共有化・共同利用



土地利用の明確化・
農地条件の改善



活動のエンジンとなる組織

市の役割

推進チーム(市・県・JA・農業委員会)として

「ありたい姿」の実現に向けて定められた方策に対する各種支援

令和3年度

幅広い参加者が率直な意見・考えを出し合い、
中山間地域農業のあるべき姿、理想的な姿を共有し、
4つのテーマごとに、実現に必要な取組を見出す

令和4年度

- 見出された必要な取組の具体化を検討・共有
「いつ」 「誰が」 「どうやって」
- 取組を下支えする「活動のエンジンとなる組織」の検討

令和5年度以降

共有された取組の実践

中山間地域等直接支払交付金 集落戦略の作成などの各種施策へも反映

- ・ 中山間地域等直接支払制度に取り組む地区がある

7の地域自治区で各2回開催

～理想的な中山間地域農業のあるべき姿を広域的観点で探る

- ・ 直接支払集落協定や集落の役員だけでなく、

若手や女性など幅広い世代の農業者が参加

～発言しやすい環境づくりのため、性別・年代を偏らせたグループ編成

- ・ 話し合いを促すファシリテーターとして

市、県、農業委員会、農協で構成する「推進チーム」を編成

～各々が担当する立場で、地域の意見を吸い上げる心構えで臨む

延べ14回・444名が議論に参加

谷浜・桑取区
12月14日(火)・3月29日(火)
延べ60名参加

吉川区
11月19日(金)・3月23日(水)
延べ63名参加

大島区
11月30日(火)・3月24日(木)
延べ69名参加

名立区
8月20日(金)・12月21日(火)
延べ69名参加

安塚区
11月25日(木)・3月25日(金)
延べ65名参加

板倉区
11月26日(金)・3月22日(火)
延べ56名参加

牧区
11月29日(月)・3月23日(水)
延べ62名参加

※浦川原区:明治大学主導のフューチャーデザイン・ワークショップ
※中郷区・清里区:新潟県主導のビレッジプラン
※柿崎区:第5期対策開始時に協定広域化議論実施済

第1回開催(令和3年12月まで)

第2回開催(令和4年3月まで)

人・農地・地域の
「強み」「弱み」
の洗い出し

「強み」を伸ばし、
「弱み」を克服する
“方策”の検討

第1回で出た意見を踏まえて
取組方向性や
キャッチフレーズ(CP)
の決定

取組方向性やCPを踏まえて
今取り組めるもの、
将来取り組むべきもの
の検討

ワークショップ参加者の約束ごと

気軽に、楽しく、中身濃く

- ・自分ばかり話しません
- ・相手の意見を否定しません
- ・楽しい雰囲気を大切にします
- ・参加者は対等です
- ・皆が気持ちよく話せるようにします

第1回 地域の「強み」「弱み」と「方策」の洗い出し

第2回 方向性の決定と必要な取組の検討



参加者の率直な考えを付箋に書き出し、

関連するカテゴリーに分類するとともに、さらにグルーピング

大島区では、

付箋枚数442枚

に及ぶ強み・弱み・方策を洗い出し

意見の数から
優先順位付け

集計結果から見えた最優先で取り組むべき項目

大島区の農業・くらしを守るために、

- A 「人口減・少子高齢」を受入れつつ、「人間性・地域性」「特徴・自慢・素材」を活かし、「人・担い手」の確保につなげていく
- B 「特徴・自慢・素材」を活かして、「活力・付加価値」を生み出していく
- C 「フィールド」「作業性・生産性」は、強みと弱みを再認識した上で、打開策を見出していく

出された意見をつないで、テーマ別に「方向性」を見出し、2回目で検討・決定

将来に向けた方向性	
担い手・後継者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、地域おこし協力隊の採用や農チューバー等により情報発信を行うなど、新規就農者(農ガールも!)や移住者の受入れ体制を整えます。 ・ ベテラン農家が培ってきた経験と技術を活かし、新規就農者を育てます。
農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS等を活用して、豊かな自然環境やホタルなどの地域の宝をPRし、農業体験イベントを通じた交流を促進します。(⇒ 結果として、農産物の販売促進や担い手・後継者の確保にもつながる) ・ 棚田米等の高付加価値化を図り、様々な販売ルートにより大島区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存制度を有効活用した先進機器の導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 ・ 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。
土地利用の明確化・農地条件の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 ・ その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
活動のエンジンとなる組織の育成強化(上記を下支え)	

第2回 方向性の決定と必要な取組の検討

集計結果から見えた最優先で取り組むべき項目

- 大島区の農業・暮らしを守るために、
- A 「人口減・少子高齢」を受入れつつ、「人間性・地域性」「特徴・自慢・素材」を活かし、「人・担い手」の確保につなげていく
 - B 「特徴・自慢・素材」を活かして、「活力・付加価値」を生み出していく
 - C 「フィールド」「作業性・生産性」は、強みと弱みを再認識した上で、打開策を見出していく

出された意見をつないで、テーマ別に「方向性」を見出し、2回目で検討・決定

	将来に向けた方向性
担い手・後継者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、地域おこし協力隊の採用や農チューバー等により情報発信を行うなど、新規就農者（農ガールも！）や移住者の受入れ体制を整えます。 ・ ベテラン農家が培ってきた経験と技術を活かし、新規就農者を育てます。
農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS等を活用して、豊かな自然環境やホテルなどの地域の宝をPRし、農業体験イベントを通じた交流を促進します。（⇒ 結果として、農産物の販売促進や担い手・後継者の確保にもつながる） ・ 棚田米等の高付加価値化を図り、様々な販売ルートにより大島区の農産物（米、山菜等）を販売し、地域全体の増収を目指します。
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存制度を有効活用した先進機器の導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 ・ 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。
土地利用の明確化・農地条件の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討（集落戦略の作成）を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 ・ その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
活動のエンジンとなる組織の育成強化（上記を下支え）	

① キャッチフレーズの決定

大島区らしさである

人や物・自然の豊かさを活かし、
楽しい農業や地域のつながりにより、
人生の楽園をめざします

② 将来に向けた方向性と

キャッチフレーズを踏まえた
必要な取組の検討

「今取り組めるもの」

「将来取り組むべきもの」の検討

令和3年度における地域自治區別ワークショップの開催状況 ～キャッチフレーズ・将来の方向性～

地域自治区	キャッチフレーズ	将来の方向性			
		担い手・後継者の確保	作物選定・所得確保	機械共同化・スマート農機導入	土地利用・農地条件
谷浜・桑取区	谷浜・桑取区らしさである海から山までの地域資源を活かし、地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします	<ul style="list-style-type: none"> 谷浜・桑取区の「らしさ」「ならでは」であるNPOや生産組合等の既存組織の活力、歴史や伝統の継承、人と人のつながりなどを活かし、「見る」から「体験」までのきっかけづくりを大切に農業と地域の担い手確保、コロナ禍における第2のふるさとづくりに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な山・海のめぐみや貴重な地域資源を活かした食のブランド化に向けた取組を推進します。 谷浜・桑取区の今(ひと・食・伝統・くらし)などを発信し、さらなるファンづくりに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な水資源や水源涵養活動を活かし、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。
安塚区	安塚区らしさである豊かな自然と雪を活かし、ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします	<ul style="list-style-type: none"> 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。 将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 豊かな自然環境を活かして、定住化(U/Iターン)に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> スキー場と温泉の交流人口を活かした情報発信を行い、豊かな環境のもとで作られた農産物売り込みます。 雪室を活用した農産物の高付加価値化を図るとともに、様々な販売ルートを通じて、安塚区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。 雪室を利用した特産品を開発します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
大島区	大島区らしさである人や物・自然の豊かさを活かし、楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします	<ul style="list-style-type: none"> 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。 将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 豊かな自然環境を活かして、定住化(U/Iターン)に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> SNS等を活用して、豊かな自然環境やホテルなどの地域の宝をPRし、農業体験イベントを通じた交流を促進します。(結果として、農産物の販売促進や担い手・後継者の確保にもつながる) 棚田米等の高付加価値化を図り、様々な販売ルートにより大島区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
牧区	牧区らしさである自然・棚田・人情を活かし、SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を活用した移住の手法を検討します。 ボランティアの募集・受入体制を整備します。 女性の農業参入を促進するため、環境を整備し、将来的には農業で集落内外の人材を雇用します。 	<ul style="list-style-type: none"> 牧区の自然を活用した販売促進、イベントの開催を検討します。 様々なメディア(媒体)を使用し、牧区の魅力や歴史、商品をPRします。 	<ul style="list-style-type: none"> 各生産組合・農事組合法人で連携し、スマート農業の導入を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に、基盤整備(農地・農道・水路・ため池)の構想を検討します。特に水不足に対応するため、既存のため池の有効利用も含めて、用水の確保をします。
吉川区	吉川区らしさである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、移住の促進と交流人口の拡大することにより、担い手農家の確保・育成を図ります	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、広域的な集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> 吉川区「らしさ」「ならでは」を活かし、「山・水・農」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「吉川ブランド」を確立させます。 SNSやネット販売などを通じて吉川ブランドを発信します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に行った「集落戦略」を見直し、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地を明確化します。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。
板倉区	板倉区らしさである米とソバの美味しさを活かし、インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の受け入れを促進します。 将来的に、空き家を活用した移住者向け住宅整備を検討します。 ボランティアの募集・受入体制を整備します。 将来的に、人材(リーダー)育成組織の立ち上げを検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ソバの生産・販売を強化します。 板倉区や農業の良さをPRする手法を検討します。 雪や観光地を活用した販売方法を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 平場の農業者と連携し、スマート農業の導入や中山間地域・平場の共同による農地と農業用施設の維持管理を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に行う「集落戦略の作成」において、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地・活用可能な農地を線引きします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。
名立区	名立区らしさである豊富な資源を活かし、地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> 名立区「らしさ」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。 SNSやネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体的な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。

谷浜・桑取区

谷浜・桑取区らしさである海から山までの地域資源を活かし、
地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします

安塚区

安塚区らしさである豊かな自然と雪を活かし、
ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします

大島区

大島区らしさである人や物・自然の豊かさを活かし、
楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします

牧区

牧区らしさである自然・棚田・人情を活かし、
SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします

吉川区

吉川区らしさである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、
移住の促進と交流人口の拡大することにより、
担い手農家の確保・育成を図ります

板倉区

板倉区らしさである米とソバの美味しさを活かし、
インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます

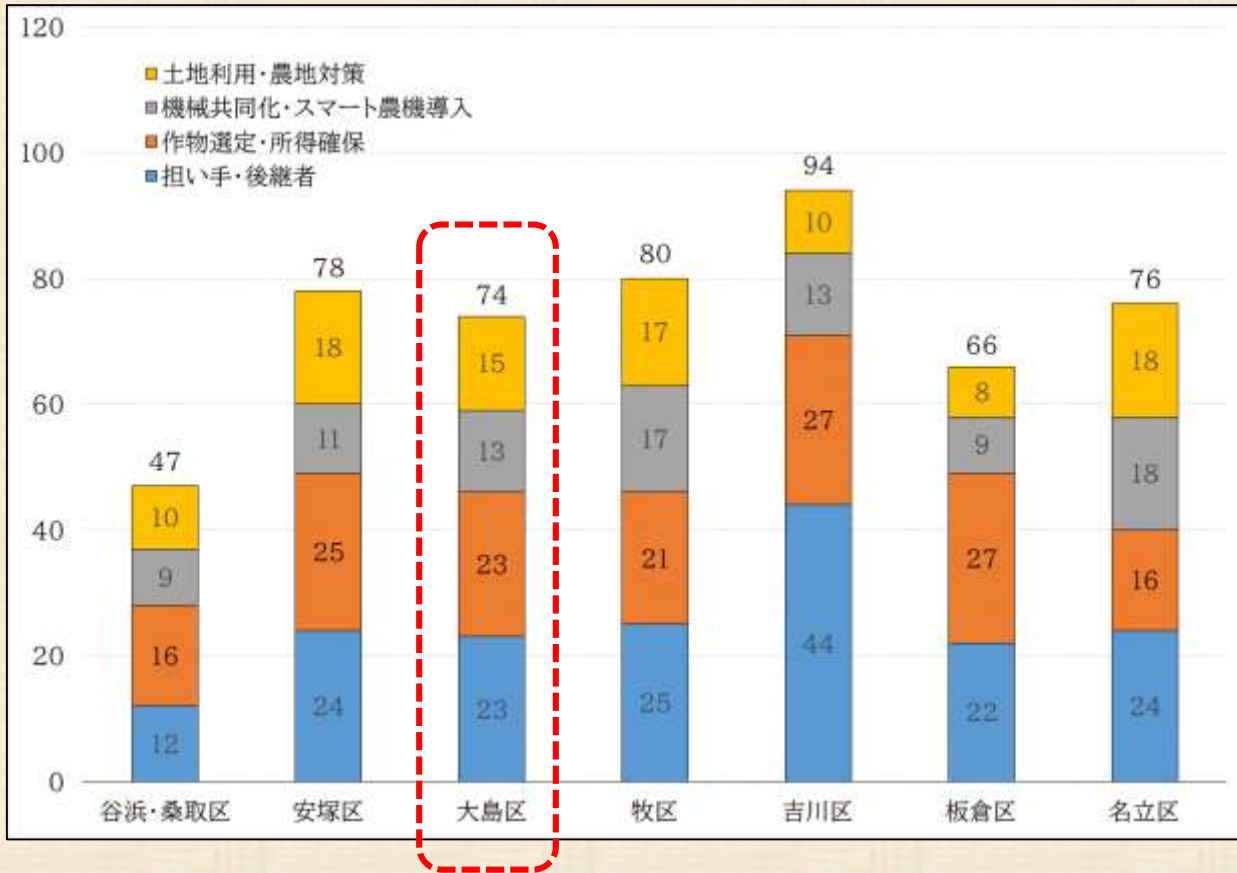
名立区

名立区らしさである豊富な資源を活かし、
地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます

課題解決に向けたテーマ	見出された取組の例	
	今取り組めるもの	将来取り組むべきもの
担い手・後継者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農希望者を探す。定年帰農者の受入れ 地域おこし協力隊、中山間地域支え隊の活用 農業の経験、知識、技術を学ぶ機会 地域の現状が分かる地元出身者から就農してもらう 新規就農者の指導者や貸し付ける田を決めておく 棚田の魅力アップのための写真コンテストの開催 生産法人、組合作り。魅力ある産業づくりを！ 米で生活できる米価にする 	<ul style="list-style-type: none"> 暮らしたいと思われる「産業・地域づくり」「田んぼ・農地」を目指す 食べ物、習わしなど、項目に特化したものをまとめる 豊かな暮らしを目指したい人を呼び込む 農業会社を設立し、耕作を請け負う 空き家を一括管理して、移住環境を整える。 農村ならではの住宅団地を造る 移住者の確保。外国人労働者の雇用 後継者の所得が月額25万円得られる農業 文科省に頼んで高校生に6か月農業実習をしてもらう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">移住と収入はセット</div>
作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> 大島区版の農業収支モデルを作る→農業所得の明確化 所得補償 豊かな自然、山の恵み、ホテル、棚田をSNS等で情報発信し、地域の担い手を確保。自然体験イベントの実施 農産物の直売所を設置。米+地域の加工品のセット販売 農産物にブランド名を入れて情報発信。米に名前をつけて販売 米や地域の魅力をSNSで発信 大島区出身者へ米の売り込みと顧客を紹介してもらう 年賀状を持ちより情報発信の名簿を作る 	<ul style="list-style-type: none"> 農家レストラン 農産物の加工により、通年でスタッフを雇えるようにする 農産物を加工し、高付加価値化による所得の増収 海外販売ルートの確保 会社、法人を作る 若い人、農業初心者に農業で生計を立てられる取組み プロユースチャーバーを大島区から1人育て上げる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">地元食材の活用と販路開拓</div>
機械共同化・スマート農機導入	<ul style="list-style-type: none"> 農業機械の共同利用の促進。農作業の共同化 機械を個人で更新しないという申し合わせ オペレーターの確保。農地を法人、少人数にまかせる 農業機械はすべて国の補助 ・ドローン、草刈りロボットの活用 NOSAIの防除の継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> スマート農機による作業の完全自動化 専従オペレーターの育成 棚田における用水自動給水システムの実用化 ドローンによる草刈り。新たな除草の開発による自然に優しい取組み <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">専従オペレーターの育成</div>
土地利用・農地条件	<ul style="list-style-type: none"> 人・農地プランが十分理解されていない。自分のこととして考えるためのPR。将来人口を前提にした人・農地プランの作成。 第三者による農地ごとの査定、評価 農道、水路、ため池の整備。再基盤整備 耕作地の選定を行う。守る農地の明確化 田んぼダムの設置。 ・年貢をなくす 	<ul style="list-style-type: none"> 農地の区画整理 残す農地の明確化 農地バンク(規模拡大志向の農家に農地が集積できるシステムづくり) 農地バンクに似たようなもの(ほ場条件が分かる)など 荒れた土地など、景観をこわさないように整備 棚田の指定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">農地情報の仕組みづくり</div>

各区におけるテーマ別取組数
(区内での関心度)

テーマ別取組構成比率の各区と7区全体との差
(市内における関心度の差)

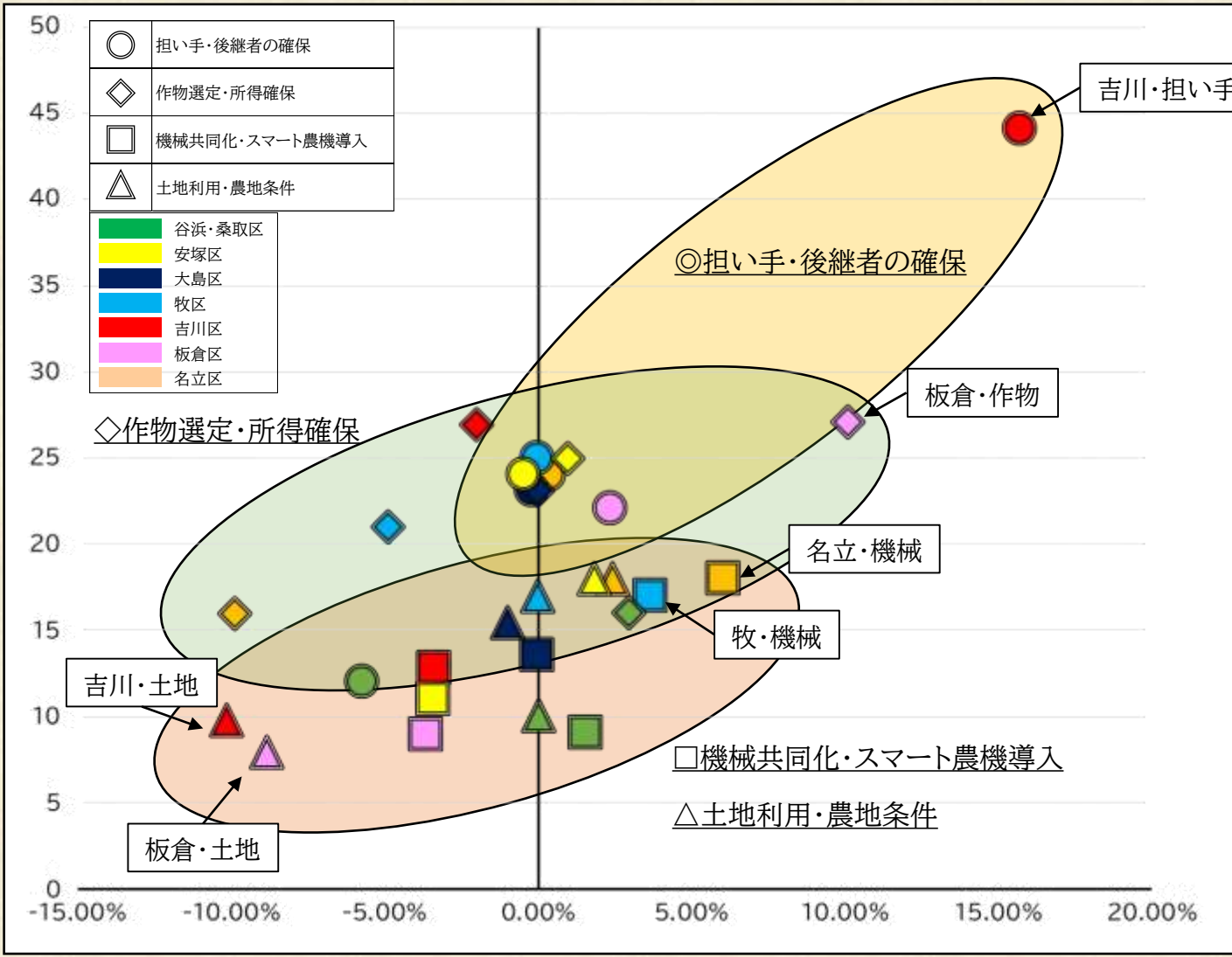


「担い手・後継者」に関する取組が多く見出され、
次いで、「作物選定・所得確保」に関する取組が多い傾向に

吉川区の「担い手・後継者の確保」と
板倉区の「作物選定・所得確保」が突出して高い比率に

第2回目で見出された取組の数と地区別傾向

(区内での関心度)



各区構成比率と7区構成比率との差
(市内における関心度の地域差)

◎担い手・後継者の確保

- ほぼ全ての区で見出された取組数が最も多くなっており、関心が高い取組と考えられる。
- 吉川区で取組数と構成比率差が特に突出している。

◇作物選定・所得確保

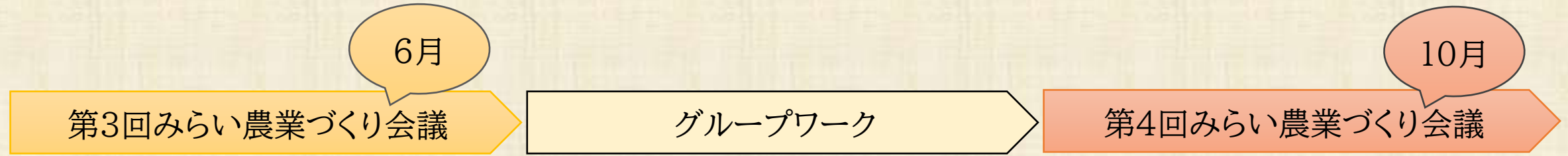
- 「担い手」に次いで取組数が多く見出されているが、各地区で構成比率差が大きい。
- 板倉区で取組数と構成比率差が+で突出している。

□機械共同化・スマート農機導入

- 「担い手」や「作物」に比べると取組数が少ないが、牧区や名立区では構成比率差が+で大きくなっており、関心が高いものと考えられる。

△土地利用・農地条件

- 「機械」と同様に「担い手」や「作物」に比べると取組数が少なく、特に吉川区と板倉区では構成比率差が- (マイナス) で大きくなっている。



第2回目の議論で見出された
テーマ別の「必要な取組」

「今取り組めるもの」
「将来取り組むべきもの」

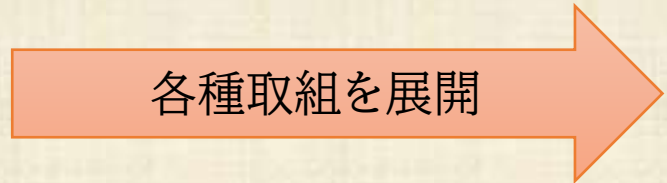
を、グループワークでの
議論材料として整理

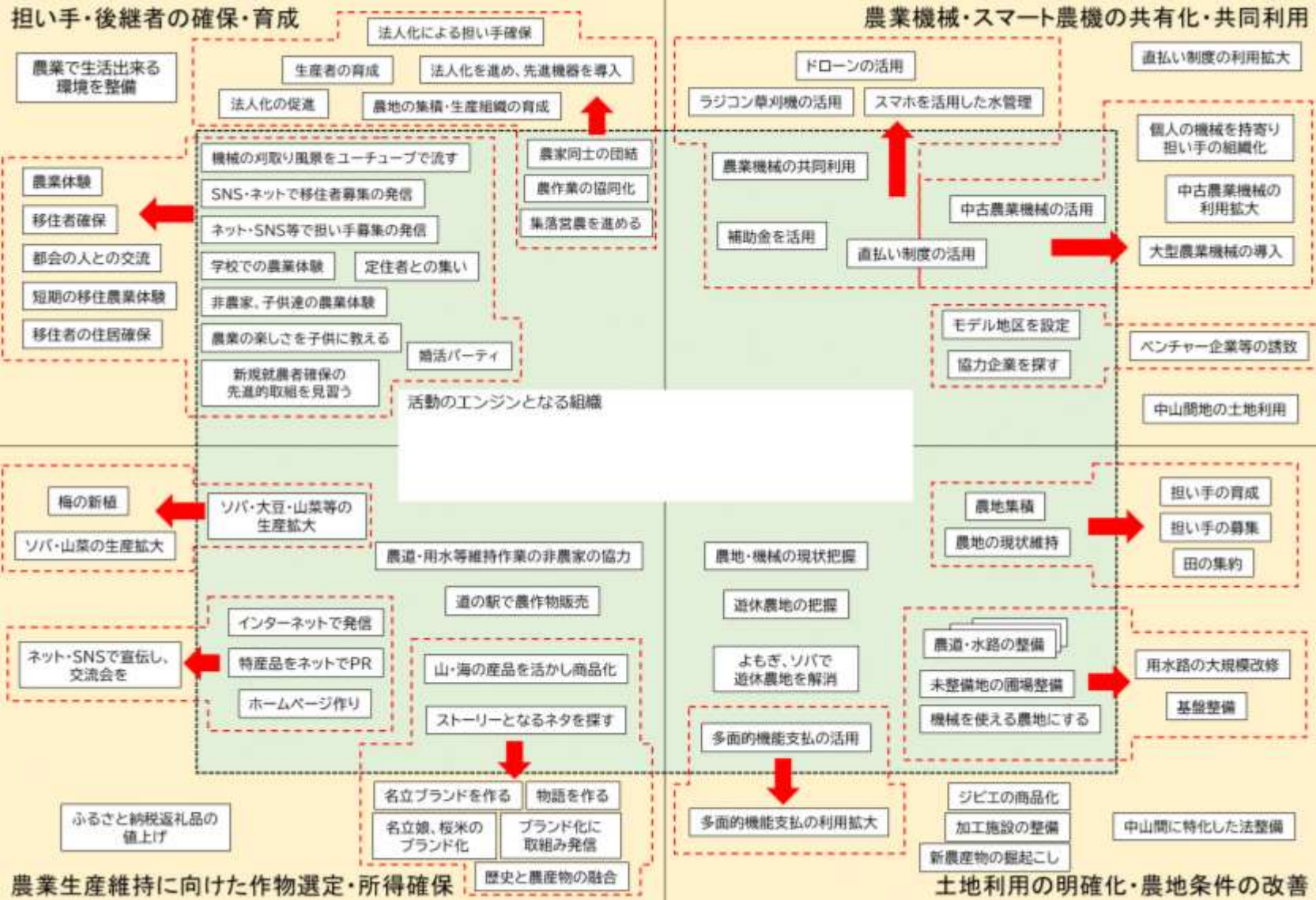
- 担い手・後継者の確保
- 作物選定・所得確保
- 機械共同化・スマート農機導入
- 土地利用・農地条件
- 活動のエンジンとなる組織

グループワークでの
議論を集約化し、
地域将来ビジョン

として決定・共有

課題解決のテーマ別に取り組の具体化を議論
(いつ、誰が、どうやって)





集約化した上で、整理

同じ取組でも、

- ・「今」「将来」の双方にある
- ・複数のテーマにまたがっている



その取組が属するべきと思われる「テーマ」「時間軸」をグループごとに話し合って整理

活動のエンジンとなる組織のイメージを整理



グループワークの材料

県事業等による取組の概要

地域 自治区	取組手法 (実施主体)	会議の名称	取組概要	これまでの取組	今後の予定
浦川原区	フューチャー デザイン・ ワークショップ (明治大学)	浦川原区みらい 農業づくり会議	参加者が「現代世代」と「仮想将来世代」になりきり、地域が抱える課題への対応策検討をそれぞれの視点で議論することにより、長期的な視点に立った対応策を見出す。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度にワークショップを2回開催 地域の資源や取り組むべき方策について洗い出すとともに、「未来人」の視点で「残したいもの」「変えてはならないもの」などを議論した。 	令和3年度に議論した内容を、他の地区同様に課題解決に向けた5つのテーマ別に振り分け、必要な取組の設定・共有を行う。
中郷区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	中郷区農業の 未来を考える会	<p>参加者が、人口推計に基づく地域の人口減少危機を具体的に把握した上で、地域の維持に向けた定住目標や活性化の取組を検討し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状分析 人口推計に基づいて予測される将来の人口と農業者の減少を緩和する「人口安定化シナリオ」(定住目標)や、地域の人的資源を洗い出す「地元関係図」を作成 将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。 将来プランの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2・3年度に計9回のワークショップを開催し、「将来プラン」を策定 重点取組項目として、「中郷ブランドづくり」「都市農村交流の促進」「女性の活躍の場創出」「必要な体制づくりや広域連携」を見出した。 	令和3年度に定めた「将来プラン」に基づき、年次計画で各種の取組を実践
清里区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	「きよさと未来予想図」を作る会	<ul style="list-style-type: none"> 将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。 将来プランの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度にワークショップを6回開催 地元関係図の作成過程から、基本的な方針として、地域の維持に必要なサービス(就労場所)を提供する3つの広場(山・農・村)の形成を目指すこととした。 	令和3年度の議論を踏まえ、「将来プラン」への昇華を目指し、参加者による区内踏査(6月)や、モデル事業の実施(10月)を予定

大島区地域協議会 視察研修先一覧

資料No. 2

年度	実施日	視察先	内 容
平成22年度	10.27(水)	十日町市松之山東川	地域おこし協力隊
		十日町市赤倉集落	集落での地域活動が盛んな集落
		柏崎市高柳町岡野町	シャッターアートで観光客を呼び込む
平成23年度	10.26(水)	長野県下水内郡栄村	NPO法人 栄村ネットワーク (栄村のむらづくりと発展のための団体)
平成25年度	9.2(月)	長野県下水内郡栄村役場	独自事業田直し・道直し・げたばきヘルパー・雪害対策救助員・道踏み支援・デマンド交通
		中魚沼郡津南町役場	自立計画・地域おこし協力隊
平成26年度	9.4(木)	長岡市山古志	やまこし復興交流館おらたる(地域と来訪者をつなぐ交流スペース) 木籠(こごも)メモリアルパーク(震災の記録)
		長岡市菅畑	農家レストラン・農産物直売所すがばたけ
平成27年度	9.1(火)	十日町市池谷集落	十日町市地域おこし実行委員会(震災復興と集落の存続を目指して、都市住民ボランティアとの協力・協働)
		大地の芸術祭	
平成28年度	9.1(木)	長野県上水内郡小川村	役場: 地域振興の取組状況 信州 小川の庄 おやき村
		長野県長野市松代町	松代城跡・真田宝物館見学
平成29年度	9.1(金)	十日町市南鏡坂	(株)Aファーム 雪の十日町(第6次産業への取組、農家レストラン)
		南魚沼市清水集落	特定非営利法人 ECOPLUS(“本当の豊かさを求めて”活動する法人)
平成30年度	9.10(月)	名立区瀬戸	不動森あげ米かい(ひまわり農園、蛍のビオトープ)
令和元年度	8.30(金)	柿崎区水野集落	柿崎区中山間地域農業振興会(中山間地域等直接支払交付金に係る集落協定締結の12集落で構成) 各集落が抱える課題に対する支援策の一つとして地域おこし協力隊を導入
		十日町市室野集落	室野集落安全づくりの会(除雪支援)
令和2年度	—	—	新型コロナウイルスの影響により、実施せず。
令和3年度	—	—	新型コロナウイルスの影響により、実施せず。

令和3年度 地域協議会視察研修実施状況(大島区以外)

参考資料 1

地域協議会名	実施日	研修先	研修内容
三郷区地域協議会	7月15日	高士地区公民館→八千浦地区公民館(八千浦交流館はまぐみ)	他地区の公民館の施設の視察(自主的審議事項「三郷地区公民館の整備について」を審議のため)
和田区地域協議会	11月14日	釜蓋遺跡公園、釜蓋遺跡ガイダンス(大和5-4-7)	自主的審議事項「上越妙高駅周辺の整備、活性化について」の審議に生かすため、上越妙高駅西口の釜蓋遺跡を視察する。
直江津区地域協議会	10月23日	・古城小学校(福島城資料館) ・三八市 ・ライオン像のある館 ・船見公園(車窓)	自主的審議の参考とするため、直江津区内の施設や区域を視察する。
柿崎区地域協議会	9月17日	古民家カフェ矢代(妙高市) 山のホームサ(牧区高尾)	・空き家対策の取組の経緯、空き家の改修内容と財源、施設運営の現状、交流イベントの実施状況、課題、意見交換等
大潟区地域協議会	11月10日	雪だるま高原キューピットパレイスキー場(安塚区)	・集客及び収益増加に向けたキューピットパレイの取組について、(株)スマイルリゾートの佐藤総支配人から話を聞くとともに、現地を見学する。
中郷区地域協議会	11月9日	中郷区内及び高田駐屯地	・中郷小学校の通学路の積雪時危険箇所・要注意箇所について検分する。 ・中郷区内にある関山演習場の視察
板倉区地域協議会	10月21日	頸城区大池いこいの森、坂口記念館、くびき野レールパーク	・大池いこいの森ビジターセンターで頸城区観光協会の設立経緯やキャンプ場の運営について説明を受けた。また、くびき野レールパークでは、軽便鉄道の乗車体験やくびきのお宝のこす会の活動について説明を受けた。
清里区地域協議会	10月14日	・ガス水道局 ガステラス ・上越体操場 ジムリーナ ・(株)岩の原葡萄園 ・(有)グリーンファーム清里	・新設された施設の見学 ・複合農業への取組についての現状などの説明 ・意見交換
三和区地域協議会	8月26日	三和西部工業団地協同組合	・工業団地の現状や諸課題などの説明 ・意見交換 ・事業所視察
名立区地域協議会	2月8日	名立区総合事務所	・総合事務所職員から、区内で近年起こっている鳥獣被害や災害の状況、大雪への対応について説明し、意見交換を行う。

令和3年度 地域協議会委員研修(講演会等)実績

参考資料 2

区		実施日	会場	講師	内容
高田区		1月11日	福祉交流プラザ	Kinaiyaプロジェクト 代表 打田 亮介 氏	・Kinaiyaプロジェクトの活動について等 (講演) ・質疑応答、意見交換
津有区		8月30日	津有地区公民館	前島記念館館長 利根川 文男 氏	講演「前島密翁の生い立ちや功績について」
三郷区		1月25日	三郷地区公民館	教育総務課参事	学校適正配置に係る三郷小学校区の現状 について
高士区		2月8日	高士地区公民館	上越教育大学大学院 准教授 吉田 昌幸 氏	「地域の魅力」とその発信について
直江津区		12月16日	レインボーセンター	上越市立水族博物館 うみがたり館長	上越市立水族博物館「うみがたり」の運営実 績や施設運営・今後の取組について
保倉区		9月30日	保倉地区公民館	保倉まちづくり振興会	保倉まちづくり振興会の活動について
浦川原区		11月22日	浦川原地区公民館 講堂	島根大学教育学部教授 作野 広和 氏	「転換点に立つ集落～どうしても守れない集 落・エリアに対してどう向き合うか～」をテー マとした講演
		3月11日	浦川原コミュニティプラザ 市民ホール	北越急行株式会社 代表取締役社長 小池 裕明 氏	ほくほく線の現状と利用促進をテーマに、 「25年目の原点回帰」を演題に講演
柿崎区		2月20日	柿崎コミュニティプラザ	矢代古民家活用の会	地域活動と地域の未来
吉川区		2月26日	吉川コミュニティプラザ	名立まちづくり協議会 会長 三浦 元二 氏	名立のまちづくりに向けての事例発表
合同 研修	安塚区	5月6日	大島就業改善センター	野澤副市長	「上越市と地域協議会」 ～上越市における地域自治区の在り方～
	浦川原区				
	大島区				
合同 研修	柿崎区	1月25日	柿崎地区公民館	前島記念館館長 利根川 文男 氏	近代日本の立役者 前島密
	大潟区				
	頸城区				
	吉川区				
合同 研修	牧区	12月10日	はーとぴあ中郷 研修室	北信越地域資源研究所 代表取締役 平原 匡 氏	中山間地域の振興についてをテーマに 「フルサトではじめてのフルサットの話 ～上越妙高駅開業7周年と それからに向けて～」を演題に講演
	中郷区				
	板倉区				
	清里区				

※ 講師肩書は研修の実施日時点のものを表記しています。